

Data & Innovation

データ&イノベーション学群

- 2024年度開設
- 定員60名
- 学内最難関を維持（一般入試）

6月報告会の動画
こちらから



AIを使う時代から、
AIで社会とビジネスを変えるAX時代へ
—AX時代のMBAプレップスクール—

お金が回る仕組みが先
技術はそれを加速させるツール

3つの特徴

- ✓ 総合型・学校推薦(女子枠) 6割
- ✓ 女子率 35-40%
- ✓ 県内生率 35-37%

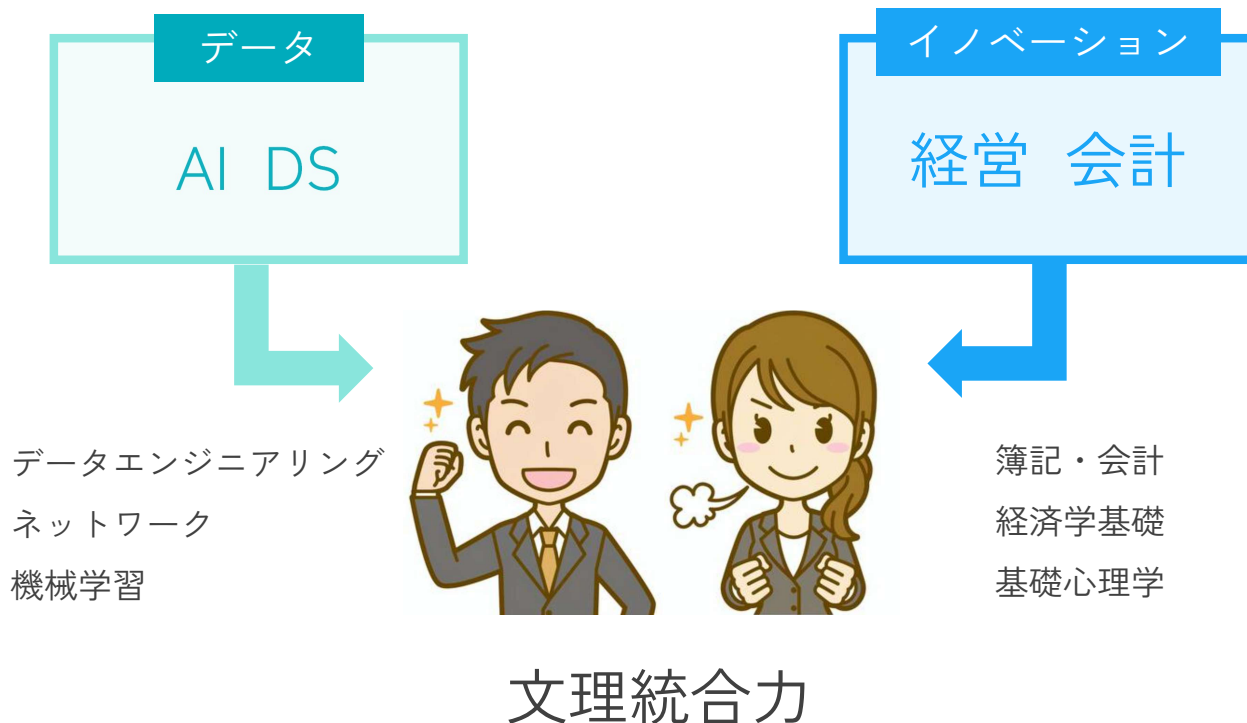
学群				システム工 学群	理工学 群	情報学 群	データ&イノベ ーション学群	経済・マネジ メント学群
入学定員(名)				170	100	100	60	160
募集 人員	一般選 抜	前期 日程	A方 式	85	40	40	25	45
			B方 式	20		10	5	20
			C方 式		10			20
		後期日程		10	10	10	5	10
		計		115	60	60	35	95
		学校推 薦型選 抜	学校推薦（一 般区分）	若干名 【女子枠】	10 (5)		若干名 【女子枠】	20（15）
	総合型選抜		55（30）	30 (15)	40 (20)	25（15）	45（20）	

■ 総合型：午後に筆記対策講座を実施

■ 学校推薦：口頭試問あり（☒ 統計基礎）

■ 面接ポイント：イノベーション×テクノロジー

1. ビジネスモデルのイノベーション：売り方・払い方を変えた
 - ✓ Netflixなどのサブスク
 - ✓ メルカリ
 - ✓ 100円ショップ
2. 仕組みのイノベーション：人・物・注文の流れを変えた
 - ✓ 回転寿司
 - ✓ ネット注文と店舗受け取り
 - ✓ 宅配便の時間指定.



AI・データサイエンスがわかる高度経営人材

※2024年入学式スライド抜粋

※ボリュームゾーン（62名中45名）の人材イメージ，キャリアデザインの参考に

本学群の教育研究は6年で完結！

AI・データサイエンスの原理がわかっていて使いこなせるMBAホルダーと同格



連携プロジェクト型教育（PBL）の概要

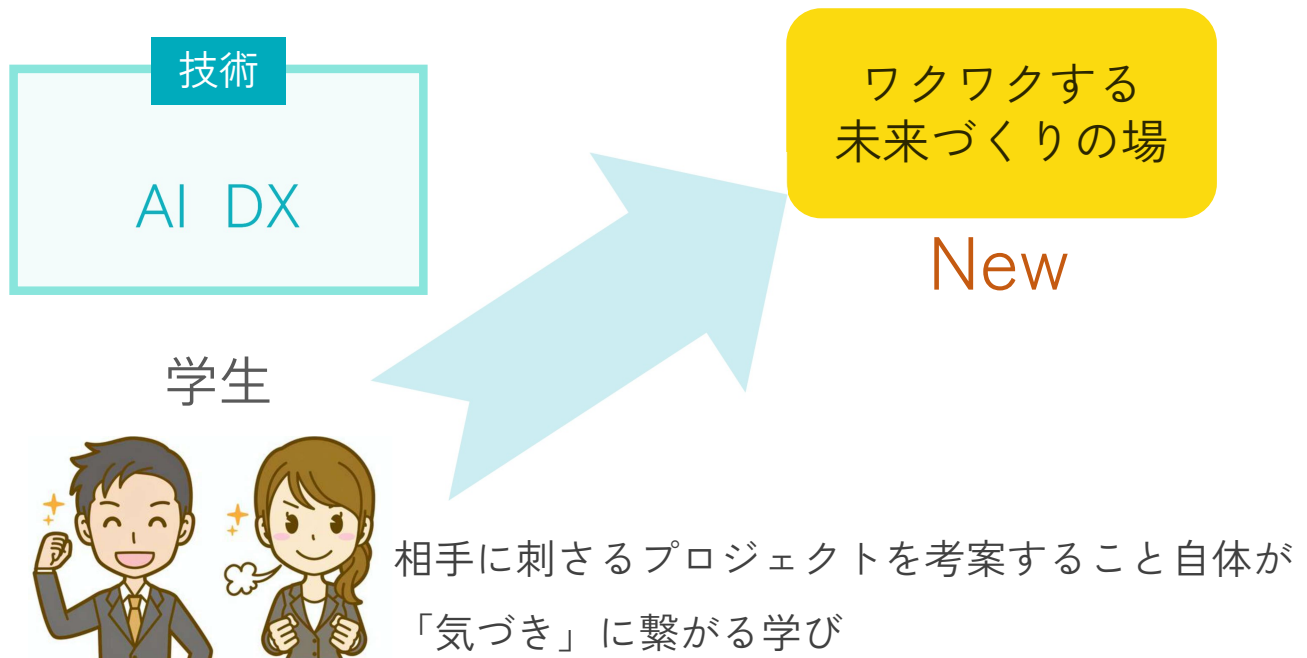
- 共同事業&共同研究
- 臨機応変でプロジェクト期間設定
- 下半期以降、常時30プロジェクトを運営
※現時点：25プロジェクト

PBL三原則

お相手の“半歩先”を見据えたプロジェクト設計

- お相手先ファースト：相手の思い・方向性を起点にする
- 半歩先：課題解決ではなく「やってみたいこと」に焦点
- ちょっと先のデジタル：「AIサービスお試し」の機会に

「気づき」の場づくり



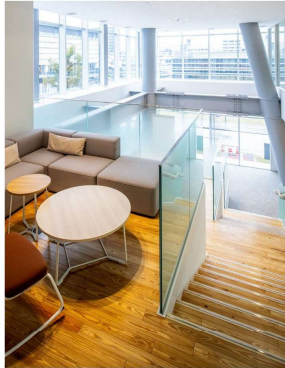
第一線の実務家教員による教育体制

多様な分野で活躍する実務家教員が、PBLをサポートします

- 特任教授（常勤）：電通出身
- 特任教授（非常勤）：マイクロソフト
- 客員教授：ドルビージャパン代表，樹林AI会長
- 客員教授：デジタル人材育成学会会長
- 客員教授：NTTドコモ支店長
- 客員教授：半導体・有機EL製造装置分野の第一人者，ほか

大学の「学び」は ここまで社会とつながる

セブン-イレブン・ジャパン
高知ファイティングドッグス 登壇
23プロジェクト公開
展示・ピッチ・プレゼン



一般公開・入場無料
出入り自由（時間内いつでも参加可）



詳細・申込はこちら

6.5（金）13:00-17:30

6.6（土）12:00-17:00

高知工科大学 永国寺キャンパス
イノベーション ラボ棟

D&I EXPO2026



四経連会報 2026 年 3 月号

No.756

INDEX

- 1 千思万考 佐々木 仁 参与
- 2 委員会活動報告
- 4 四国イノベーションピッチ2026
- 7 デジタル技術社会実装研究会
- 9 委員会+ 「高知工科大学」文理融合で地域課題解決
- 11 「DX・デジタル化」に関するアンケート調査結果の概要
- 15 第1回新幹線基本計画路線全国総決起大会
- 18 環瀬戸内海地域交流促進協議会
- 19 四国遍路世界遺産登録推進協議会シンポジウム
- 20 景気の動き
- 21 主要経済指標の推移
- 22 地域経済情報
- 23 これからの行事
- 24 新規会員ご紹介のお願い
- 25 事務局日誌

表紙写真 硝子の桜(阿南市 太龍寺)



撮影：秋山 浩樹 氏（香川県三木町）

2024年4月に新設された高知工科大学データ&イノベーション学群（学群長：古澤浩氏）は、AI・データサイエンスの応用力を養うことはもとより、民間企業や公的機関との連携プロジェクトにも参画し、文理統合力に磨きをかける学びを重視している。

教育の中核をなすのが、企業や地域と連携した独自のPBL（Project Based Learning）。1年次から3年次まで継続して行われ、数年単位で地域社会の課題に取り組む「共同事業」である。DX推進委員会では、学群長および実際にPBLに携わる学生、地域の企業・団体の皆さまから話を伺った。（担当 古泉）

〈PBLの概要〉

対象年次	1年～3年
実働期間	1.5年間
プロジェクト	高知市中心部の活性化、テレマティクスデータを活用した交通事故の未然防止、データ分析によるゴルフトッププレイヤーの育成など25プロジェクトを展開。2026年度は30プロジェクトを立ち上げ予定。
班編成	各学年2名、1グループ6名
支援体制	教員・上級生がメンター支援

■PBLの三原則

PBLは「相手の半歩先を見据えたプロジェクト設計」と古澤氏は語る。具体的には、相手の方向性・ビジョンを起点とする「お相手ファースト」、既存業務の課題解決ではなく「やってみいたいこと」に焦点をあてた「半歩先の課題設定」、生成AIなどの様々な次世代デジタル技術の「お試し」の機会とする「少し先の概念実証の場づくり」を三原則として掲げている。

「授業の一環として、学生が一定の満足感を感じられればよいというものではなく、具体的

成果を出せる組織に成長させる」と意気込む。本気の活動を通して、「学生が自然と育つ場となることを目指したい」と話す。

■プロジェクトの立ち上げ

「お相手と対話を重ねるなかで、プロジェクト立ち上げに至るのは数割程度」と言う。それでも、プロジェクト数は2年弱の間にゼロから25にまで増え、「大学の活動に共鳴してもらえ方が増えている」と今後の取組みに期待を寄せる。「教員のこういった地道な活動が学群のDNAを創る」との信念で、黒子に徹して組織を支える。

■現実にあった挑戦

PBLに対するゴールイメージを共創するにあたって重要な点は、「学生ならではの若い発想」への過度な期待を寄せないようご理解頂くことだと古澤氏は述べる。例えば、Z世代だからと言って、突出した発想力を持つ人は少ない。「だからこそ、相手先と教員で本気でやりたいことを研ぎ澄ませる」ことが重要だと語る。

■今後の展望

「学生には教室内と現実の違いを体感し、学びを深めてほしい」と期待する。プロジェクトについては、「初期の受け止めは良いが、ここからが勝負。お互いが関わって良かったと思えるよう運営したい」と意気込む。



イノベーション ラボ棟
学群の拠点などとして2026年4月から稼働
(高知市永国寺町)

高知市の中心地に位置する帯屋町商店街。東西約650mに伸びており、いかに人流を行き渡らせるかが課題となっている。今回、東西の二つの拠点（ひろめ市場、高知大丸）をデジタルで結びつける実証プロジェクトについて、学生と商店街の皆さんに話を伺った。

■プロジェクトの概要

2025年12月にひろめ市場前でアプリケーションの体験会を開催。タブレットのAIアバターが、ひろめ市場の飲食店情報をナビゲート。参加者には高知大丸のお買物券や歴史文化施設のパンフレットなどを配布。商店街東西の人流の広がりを検証した。



アプリの体験
(写真提供 高知工科大学)

■プロジェクトを担当した学生の声

商店街の活性化が一番のゴール。でもハードルは高い。その半歩先として、インバウンド客を商店街に取込むことを目指している。今回の実証で手掛かりを掴み、次につなげていきたいと思う。(2年 安部奏人さん)

■飲食店向けの接客アプリを開発した学生の声

人手不足とインバウンド対応として、音声AIアバターを活用した接客アプリを開発。また、「利き酒」体験と銘打って、画面上で好みの日本酒をAIが判定するアプリも開発。「開発に時間はかかったが、物販・酒蔵ツアーなどの観光消費への展開が期待できる点がポイントです」と語る。(2年 大崎きりりさん、豊嶋愛夏さん)



AIを使った
接客アプリ



取材にご協力いただいた
学生の皆さん



一番右が早川 賢治氏
その隣が早川 佳佑氏

■プロジェクトに参加する事業者の声

高知市帯屋町筋商店街 理事長 早川 賢治氏

デジタル技術を使った学生の提案は、現場でとても役に立っている。見習うべき点があり、彼らの感性など吸収したい。

今やデジタル技術は私たちの身の回りにあふれている。店舗での接客や提案も、レスポンスの早いアバターが人に代わって対応する時代になるだろう。デジタル環境を整備し、こうしたサービスが、商店街全体で受けられるよう、取り組んでいきたい。

学生の皆さんには、商店街を実験場として、積極的にチャレンジしてほしい。我々商店街としても最大限、バックアップしたい。もちろん、成果が得られればありがたいことだが、地域に寄り添い、悩みを共有・解決する姿勢は、必ずや社会に出てからも役立つものだと確信している。最後に、このようなプロジェクトの場を提案いただいた大学に感謝したい。

和餐「帯や勘助」 早川 佳佑氏

学生のデジタル技術や斬新な発想は、人手不足の対応だけでなく、見えない部分で店の付加価値向上にも役立っていると思う。企画通じてお客様から楽しめたという声をいただいた。飲食体験をさらに発展させるための第一歩として、ここから発展させていきたい。学校を巣立った後も、できれば地元に着し、活躍することを期待したい。

古き良きものを基盤としつつも、こうしたデジタル実習を通じて、新しい発見や学びを育んでいくことも大事だと思う。



特集 少子化・DX時代の大学のあり方を考えるヒント

好事例から解き明かす、大学経営とデジタル人材育成

【高知工科大学】学群の新設と企業との共同プロジェクトによる独自PBLの実践

好事例から解き明かす、大学経営とデジタル人材育成 第2回

角田 仁[著]

2025/10/10 07:00

プログラミング教育

大学生・大学院生・専門学校生

課題解決型学習

学校経営・運営

データサイエンス教育

シェアする 0



リスト



今回は大学によるデジタル教育の事例紹介として、高知工科大学を取り上げる。同大学では、2024年にデータ&イノベーション学群を新設し、企業との共同プロジェクトによる独自のPBL（Project Based Learning）を1年次から導入するなど、先進的な教育を実践している。本年5月に開催されたPBL第1期プロジェクトのキックオフ講演会では、学生たちが生き生きと発表する姿が非常に印象的だった。しかし、ここに至るまでの道のりは決して平坦ではなかったと、学群長の古澤浩教授は語る。今回、古澤教授へのインタビューを通じて、学群設立の経緯や運営上の課題、そして今後の展望について伺ったので、その内容を紹介する。

目次

- | | | |
|------|---|------------------------|
| Page | 1 | 大学存続の危機感と公立大学への移行 |
| | | データ&イノベーション学群設立の経緯と苦労 |
| | | 独自のPBL導入—キックオフ講演会に参加して |



記事アクセスランキング

- | 今日 | 月間 |
|----|--|
| 1 | AIが授業準備をサポートする「Padlet TA」とは？ 指導案やプレゼン作りの相棒に |
| 2 | 関西学院が選択した「Zoom Phone」による電話システムのDX—事業継続計画強化とAI活用を両立 |
| 3 | GIGA第2期でOSを刷新！ 徳島県東みよし町が日本HPのChromebookを選んだ理由とは？ |
| 4 | Canva AIの新機能で授業準備が変わる！「Canvaシート」と「コード生成」で独自教材を作ろう |
| 5 | 「普通の学校」が生成AIを活用した学びを実現するには？「Gemini」の最新機能と導入事例を紹介 |
| 6 | おしゃれなだけじゃない！ ふりがな機能やクイズ・投票機能もある「Canva」を教育現場で使いこなそう |
| 7 | 東京理科大学「科学コミュニケーション学科」が目指すものとは？ 科学と社会の架け橋となる人材を育成 |
| 8 | AI時代、変わりゆく高等教育の役割—武蔵野大学「ウェルビーイング研究科」が目指す学びとは |
| 9 | プログラミング不要、Googleの無料AIツールで「校務お助けアプリ」を開発！ |
| 10 | 子育てとキャリアどちらか一方ではなく両立できる働き方を、学校現場から |

Page 2	－ 独自PBLの基本コンセプト
Page 3	－ 運営上の課題と今後の取り組み

大学存続の危機感と公立大学への移行

高知工科大学は、1997年創設の私立大学として開学した。当初は公設民営方式を採用したが、さまざまな要因で志願者が年々減少し、2006年には定員割れとなった。そこで2009年、生き残りをかけて公立大学法人として再出発した。私立大学の公立化は、同大学が全国初のケースである。まさに大学存続の危機感から、入試日程の変更や地元高校との連携などさまざまな施策が実施された。

それが奏功して2009年度入学者からは定員割れを解消し、以降は安定した大学運営を行っている。その後も高知工科大学では、さまざまな改革を断行してきた。その結果、「THE（Times Higher Education）世界大学ランキング2023」の研究分野で日本の公立大学4位^{【※1】}、「THE学際科学ランキング2025」で日本の公立大学2位^{【※2】}にランクイン。また、日本経済新聞社などによる「企業の人事担当者から見た大学イメージ調査」（2023年実施）では、「採用を増やしたい大学」全国2位に選ばれる^{【※3】}など、着実に成果を上げている。

そして2024年、「データ&イノベーション学群」を新設し、本格的なデジタル教育に乗り出した。同年4月に約60名の新入生を迎え、2026年からは高知市の中心部にある永国寺キャンパスに建設中の新棟へ移転を予定している。順風満帆に見える同学群だが、「本学群の設立にはさまざまな障壁があり、やっとここまでたどり着いたという思いです。安堵するとともに、今後の課題も山積しており、まだ道半ばです」と古澤教授は言う。その背景にあるストーリーを詳しく伺った。

データ&イノベーション学群設立の経緯と苦勞

新学群の検討は、2017年から始まった。当初は「社会イノベーション学群」を構想したが、県庁をはじめとする関係機関の理解を得られず、2018年には計画がいったん頓挫した。しかし、それに臆することなく、2019年からは社会全体のデジタル化の波に乗る形で、「データ&イノベーション学部」の検討が再開された。当時、これらの論議を主導したのは官民出身の旧副学長2名だった。



EdTechZine
ICTで学びの可能性をひろげよう

新規会員登録 無料 のご案内

- ・全ての過去記事が閲覧できます
- ・会員限定メルマガを受信できます

✉ メールバックナンバー

 **新規会員登録 無料**

 **ログイン**

新着記事

記事	ニュース
2025/09/30 16:00	AI時代、変わりゆく高等教育の役割―武蔵野大学「ウェルビーイング研究科」が目指す学びとは
2025/09/26 10:00	関西学院が選択した「Zoom Phone」による電話システムのDX―事業継続計画強化とAI活用を両立
2025/09/22 07:00	子育てとキャリアどちらか一方ではなく両立できる働き方を、学校現場から
2025/09/19 07:00	キャリア教育における、東京との格差をいかに埋めるか？ 名古屋大学「リーダーシップ開発講座」の成果とは
2025/09/16 07:00	東京理科大学「科学コミュニケーション学科」が目指すものとは？ 科学と社会の架け橋となる人材を育成
2025/09/11 07:00	福岡教育大と内田洋行が包括連携協定を締結、附属校3拠点に未来型ICT学習環境を導入し教育的効果を検証
2025/09/09 10:00	GIGA第2期でOSを刷新！ 徳島県東みよし町が日本HPのChromebookを選んだ理由とは？
2025/09/08 07:00	苦戦が続く大学のデジタル教育―情報学部の新設は大学経営の起爆剤となるのか？
2025/09/02 07:00	「ゼロトラスト」時代の校務DX―教育委員会や学校が今、取り組むべきことは何か？

しかし、同大学が公立化以降に進めてきた、アカデミアにおけるランキング向上を重視した改革と並行して、ビジネス重視の教育改革をスタートすることについては、学内の理解を得るのは容易ではなかった。これは、私立時代に掲げていた実践重視の教育に対して、今なお残る厳しい評価が影響しているためである。「本学も『大学の生き残りをかけて、何かやらなくては』との改革意識は常に強く持っていますが、その手法についてはさまざまな意見があり、足並みをそろえるのは容易ではなかったですし、今後もそうでしょう」と古澤教授は語る。

当時、教育センター長の立場にあった古澤教授は、企画段階からメンバーとして参加し、学群の開設に向けて尽力していた。数年にわたる関係者の努力が実を結び、2023年には新学群の開設予定段階に至った。ところが、その直前には思いもよらぬ事態が発生していた。2021年6月の県議会において、高知県知事が新学群の構想について「いったん白紙に戻す」と表明したのだ。まさに青天の霹靂とも言える「鶴の一声」であった。それからの1年間、県庁に検討委員会が設置され、審議が進むなか、古澤教授は旧副学長をサポートする形で、県内のさまざまなステークホルダーへの説明に尽力し、新学群設立に向けた合意形成に努めた。

そして2024年4月、当初より1年遅れで、データ&イノベーション学群が満を持して設立された。一般選抜の入試では高い倍率を維持しているという。学群開設までには、検討開始から実に7年もの歳月が流れていた。長い道のりであったが、古澤教授をはじめ関係者の安堵は、想像に難くない。

【※1】高知工科大学「[THE世界大学ランキング2023世界版にランクイン](#)」

【※2】高知工科大学「[「THE学際的科学ランキング2025」にランクイン、国内公立2位](#)」

【※3】高知工科大学「[採用を増やしたい大学ランキングで全国2位に選ばれました](#)」

次のページ

独自のPBL導入——キックオフ講演会に参加して

1 2 3

NEXT >

この記事は参考になりましたか？



0

参考になった

印刷用を表示

シェアする 0



リスト



2025/08/29 07:00

プログラミング不要、Googleの無料AIツールで「校務お助けアプリ」を開発！

新着記事一覧を見る

イベント

 EdTechZine オンラインセミナー

 EdTechZine オンラインセミナー

特集 少子化・DX時代の大学のあり方を考えるヒント

好事例から解き明かす、大学経営とデジタル人材育成

【高知工科大学】学群の新設と企業との共同プロジェクトによる独自PBLの実践

好事例から解き明かす、大学経営とデジタル人材育成 第2回

角田 仁[著]

2025/10/10 07:00

プログラミング教育 大学生・大学院生・専門学校生 課題解決型学習
学校経営・運営 データサイエンス教育

シェアする 0



目次

- | | |
|--------|---|
| Page 1 | <ul style="list-style-type: none">大学存続の危機感と公立大学への移行データ&イノベーション学群設立の経緯と苦労 |
| Page 2 | <ul style="list-style-type: none">独自のPBL導入——キックオフ講演会に参加して独自PBLの基本コンセプト |
| Page 3 | <ul style="list-style-type: none">運営上の課題と今後の取り組み |

独自のPBL導入——キックオフ講演会に参加して

データ&イノベーション学群の思想を具現化する教育の中核が、1年次から3年次まで続く独自のPBL（Project Based Learning）だ。その成果報告の一環として、2025年5月10日に高知工科大学の永国寺キャンパスで、同学群の2年生（1期生）による「PBLキックオフ講演会」が開催された。学生や大学関係者のみならず、県庁、企業関係者、マスコミなど外部からも多くの人々が集まり、200名規模の講義室が満席になるほどの盛況ぶりだった。筆者も東京から駆け付けたが、会場の熱気は同学群への強い期待を感じさせるもので、非常に好感を持った。



記事アクセスランキング

今日

月間

- AIが授業準備をサポートする「Padlet TA」とは？ 指導案やプレゼン作りの相棒に
- 関西学院が選択した「Zoom Phone」による電話システムのDX—事業継続計画強化とAI活用を両立
- GIGA第2期でOSを刷新！ 徳島県東みよし町が日本HPのChromebookを選んだ理由とは？
- Canva AIの新機能で授業準備が変わる！ 「Canvaシート」と「コード生成」で独自教材を作ろう
- おしゃれなだけじゃない！ ふりがな機能やクイズ・投票機能もある「Canva」を教育現場で使いこなそう
- 「普通の学校」が生成AIを活用した学びを実現するには？ 「Gemini」の最新機能と導入事例を紹介
- 東京理科大学「科学コミュニケーション学科」が目指すものとは？ 科学と社会の架け橋となる人材を育成
- AI時代、変わりゆく高等教育の役割——武蔵野大学「ウェルビーイング研究科」が目指す学びとは
- プログラミング不要、Googleの無料AIツールで「校務お助けアプリ」を開発！
- 子育てとキャリアどちらか一方ではなく両立できる働き方を、学校現場から

講演会の内容は、2年生が4か月かけて準備してきたPBLの計画発表である。発表プロジェクトは10件。学生約60名が自らの関心に基づいて10チームに分かれ、計画を練り上げてきた。これらは企業や大学等との共同プロジェクトであり、各組織が抱える現実の事業課題を持ち寄り、その解決を目指す取り組みだ。また、各プロジェクトには教員が1名ずつ配置され、アドバイスや学生へのメンタリングを行っている。

発表内容は、デジタル化・データ化を駆使した本格的なプロジェクト計画であり、その内容も実践的で興味深いものが多かった。例えば、地元の明徳義塾高校ゴルフ部から持ち込まれた「調子を落とした選手の分析をしてもらえないか」との命題に対して、AIによる動作解析に加えて、心拍数のデータを採取してその相関を分析するなど新しい試みも発表されていた。

発表会の後はポスターセッションに移り、参加した社会人たちが学生に「もっとこうすれば良くなるのでは」と意見交換を行う機会が設けられた。このセッションも大変な盛況で、筆者も「このデータも取得したらどう？」などとアドバイスしながら、各ブースを楽しく回った。

その後、真新しい食堂で懇親会も開かれ、参加者たちはビールを片手に新学群への期待を語り合っていた。こうして、楽しく有意義な1日は幕を閉じた。

独自PBLの基本コンセプト

同学群では来年度以降、常時30ものプロジェクトが企業や地域と共に動く予定である。そのPBL哲学は、極めてユニークなものだ。古澤教授は、PBLを成功させるには重要な「前提」があると語気を強める。

「中高時代の探究学習の延長線上としてPBLが捉えられがちですが、そこにはありがちな誤解があります。それは、Z世代の学生に過度な期待を寄せることです。彼らだからといって、革新的なアイデアが自然に湧き出るわけではありません。だからこそ、我々は『学生ファーストでなくて良い』とさえ伝えています。重要なのは、受け入れ先である企業や地域の皆さまと、我々教員が『本気でやりたいこと』を研ぎ澄ませること。学生はその本気の渦に巻き込まれ、現実の厳しさと面白さを学ぶのです」



EdTechZine
ICTで学びの可能性をひろげよう

新規会員登録 無料 のご案内

- ・全ての過去記事が閲覧できます
- ・会員限定メルマガを受信できます

✉ [メールバックナンバー](#)

 **新規会員登録 無料**

[→ ログイン](#)

新着記事

記事	ニュース
2025/09/30 16:00	AI時代、変わりゆく高等教育の役割―武蔵野大学「ウェルビーイング研究科」が目指す学びとは
2025/09/26 10:00	関西学院が選択した「Zoom Phone」による電話システムのDX―事業継続計画強化とAI活用を両立
2025/09/22 07:00	子育てとキャリアどちらか一方ではなく両立できる働き方を、学校現場から
2025/09/19 07:00	キャリア教育における、東京との格差をいかに埋めるか？ 名古屋大学「リーダーシップ開発講座」の成果とは
2025/09/16 07:00	東京理科大学「科学コミュニケーション学科」が目指すものとは？ 科学と社会の架け橋となる人材を育成
2025/09/11 07:00	福岡教育大と内田洋行が包括連携協定を締結、附属校3拠点に未来型ICT学習環境を導入し教育的効果を検証
2025/09/09 10:00	GIGA第2期でOSを刷新！ 徳島県東みよし町が日本HPのChromebookを選んだ理由とは？
2025/09/08 07:00	苦戦が続く大学のデジタル教育―情報学部の新設は大学経営の起爆剤となるのか？
2025/09/02 07:00	「ゼロトラスト」時代の校務DX―教育委員会や学校が今、取り組むべきことは何か？



©Andrii - stock.adobe.com

2025/08/29 07:00

プログラミング不要、Googleの無料AIツールで「校務お助けアプリ」を開発！

[新着記事一覧を見る](#)

イベント



そのために、同学群ではPBLの三原則を掲げている。第一に「お相手先ファースト」。常に相手の思いや方向性を起点とする。第二に「『半歩先』を見据えたプロジェクト設計」。現業の課題解決ではなく、相手が「ちょっとやってみたい」と感じる、少し先のテーマに焦点を当てる。そして第三が「ちょっと先のデジタル」。本格導入前のAIサービスなどを、「半歩先のやってみたいこと」の中で試してみる機会として、PBLを活用する。この三原則により、既存業務との衝突を最小限に抑え、コストミнимムで価値あるチャレンジを現業と並行して展開することを目指す。その支援に関わるからこそが、同学群の目指すPBLの理想形なのだという。

[次のページ
運営上の課題と今後の取り組み](#)[< PREV](#)[1](#)[2](#)[3](#)[NEXT >](#)

この記事は参考になりましたか？



0

参考になった

印刷用を表示

シェアする 0



リスト



☰ 好事例から解き明かす、大学経営とデジタル人材育成連載 記事一覧

- 苦戦が続く大学のデジタル教育—情報学部の新設は大学経営の起爆剤となるのか？

この記事の著者

特集 少子化・DX時代の大学のあり方を考えるヒント

好事例から解き明かす、大学経営とデジタル人材育成

【高知工科大学】学群の新設と企業との共同プロジェクトによる独自PBLの実践

好事例から解き明かす、大学経営とデジタル人材育成 第2回

角田 仁[著]

2025/10/10 07:00

プログラミング教育 大学生・大学院生・専門学校生 課題解決型学習

学校経営・運営 データサイエンス教育

シェアする 0



リスト



目次

- | | |
|--------|---|
| Page 1 | <ul style="list-style-type: none">大学存続の危機感と公立大学への移行データ&イノベーション学群設立の経緯と苦労 |
| Page 2 | <ul style="list-style-type: none">独自のPBL導入——キックオフ講演会に参加して独自PBLの基本コンセプト |
| Page 3 | <ul style="list-style-type: none">運営上の課題と今後の取り組み |

運営上の課題と今後の取り組み

同学群が目指す教育の方向性について、PBLの観点から古澤教授に尋ねた。

「これまで多くの大学で地域連携を掲げる学部が設立されてきましたが、表層的な取り組みで終わるケースが多く、地域が抱える『泥々とした本当のニーズ』には応えられていないように思います。そのためには、PBLを企業との共同事業として、数年がかりで実施する必要があります。だからこそ、本学群のPBLは1年次から3年次まで継続して取り組みます。アイデアだけで終わらせず、実践と振り返りを繰り返



記事アクセスランキング

今日

月間

- 1 AIが授業準備をサポートする「Padlet TA」とは？ 指導案やプレゼン作りの相棒に
- 2 関西学院が選択した「Zoom Phone」による電話システムのDX—事業継続計画強化とAI活用を両立
- 3 GIGA第2期でOSを刷新！ 徳島県東みよし町が日本HPのChromebookを選んだ理由とは？
- 4 Canva AIの新機能で授業準備が変わる！「Canvaシート」と「コード生成」で独自教材を作ろう
- 5 おしゃれなだけじゃない！ ふりがな機能やクイズ・投票機能もある「Canva」を教育現場で使いこなそう
- 6 「普通の学校」が生成AIを活用した学びを実現するには？「Gemini」の最新機能と導入事例を紹介
- 7 東京理科大学「科学コミュニケーション学科」が目指すものとは？ 科学と社会の架け橋となる人材を育成
- 8 AI時代、変わりゆく高等教育の役割——武蔵野大学「ウェルビーイング研究科」が目指す学びとは
- 9 プログラミング不要、Googleの無料AIツールで「校務お助けアプリ」を開発！
- 10 子育てとキャリアどちらか一方ではなく両立できる働き方を、学校現場から

す。PBLだけ見れば、かなりビジネス寄りの内容です。その一方で、授業では『なんちゃってデータサイエンス』にならないよう、学術的なレベルを維持することも意識しています」と古澤教授は語る。

「その両立は難しいですね」と筆者が述べると、「はい、課題も山積しています」と古澤教授は応じた。

課題は大きく2つあるという。まず1つ目は、教員の確保と育成である。この解決策として、古澤教授は教員の役割を完全に二分していると説明する。

「専任教員は研究に十分に時間を割いてもらい、論文や外部資金獲得といったアカデミックな基準で評価します。一方、PBLの運営は、大学独自の評価制度の対象外となる特任・客員教員として、優秀なビジネス経験者を起用し協業体制を強化します。研究者とビジネスパーソンの役割を明確に分け、中途半端を避けることで、それぞれの専門性を最大限に活かす方針です」

教員について筆者が「PBLは3学年で合計30プロジェクトを常に維持する必要があります、教員の数が足りなくなるのでは？」とさらに質問すると、「将来的には、4年生と大学院生が1～3年生を指導する体制を構築します。これにより、教員の負担を軽減し、学生主体で教育が循環する持続可能な仕組みを作ります」との答えが返ってきた。

2つ目の課題は、企業との連携、特に共同プロジェクトの開拓である。PBLのためには、常時30件のプロジェクトを維持する必要がある、古澤教授自らが先頭に立って、営業担当として企業周りをしているという。その経験から、DX・AI導入支援ビジネスが隆盛を極める中で、大学の取り組みがその廉価版や劣化版と見なされることを避けるためには、「半歩先のやってみたいこと」を企業と共に構想するという、上述の共同事業スキームが理想形のひとつであるという考えに至ったのだ。

インタビューの最後に、古澤教授に今後の展望を尋ねた。それは「大学をハブとした、都市圏や海外企業と地域経済との連携モデルの構築」であるという。

「都市圏企業の地方進出が空回りする原因は地域との『認識ズレ』です。この溝を埋め、双方を結ぶ触媒が地方大学の役割です。人間関係というウェットな部分まで含めて、地域を高い解像度で理解している私たちだからこそ、都市圏や海外の企業にとってかけがえのない羅針盤となれるのです。資本を呼び込む『水先案内人』、戦略を支える『シンクタンク』、ビジネスを共創する『橋頭堡（きょうとうほ）』として企業に貢献し、唯一無二のパートナーとなる。これは県外資本の流入を促し、大学自身の新たな資金獲得にもつながります。『コスト』と語られる地方大学が、地域に価値をもたらす『ベネフィット機関』へと転換する。私たちの学群が、まずこの地域でそのモデル創り



EdTechZine
ICTで学びの可能性をひろげよう

新規会員登録 無料 のご案内

- ・全ての過去記事が閲覧できます
- ・会員限定メルマガを受信できます

✉ メールバックナンバー

 **新規会員登録 無料**

 **ログイン**

新着記事

記事	ニュース
2025/09/30 16:00	AI時代、変わりゆく高等教育の役割―武蔵野大学「ウェルビーイング研究科」が目指す学びとは
2025/09/26 10:00	関西学院が選択した「Zoom Phone」による電話システムのDX―事業継続計画強化とAI活用を両立
2025/09/22 07:00	子育てとキャリアどちらか一方ではなく両立できる働き方を、学校現場から
2025/09/19 07:00	キャリア教育における、東京との格差をいかに埋めるか？名古屋大学「リーダーシップ開発講座」の成果とは
2025/09/16 07:00	東京理科大学「科学コミュニケーション学科」が目指すものとは？科学と社会の架け橋となる人材を育成
2025/09/11 07:00	福岡教育大と内田洋行が包括連携協定を締結、附属校3拠点に未来型ICT学習環境を導入し教育的効果を検証
2025/09/09 10:00	GIGA第2期でOSを刷新！徳島県東みよし町が日本HPのChromebookを選んだ理由とは？
2025/09/08 07:00	苦戦が続く大学のデジタル教育―情報学部の新設は大学経営の起爆剤となるのか？
2025/09/02 07:00	「ゼロトラスト」時代の校務DX―教育委員会や学校が今、取り組むべきことは何か？

に挑戦したいのです」と古澤教授は熱く語ってくれた。素晴らしい構
想である。

高知工科大学 データ&イノベーション学群の挑戦と古澤教授の熱意
は、閉塞感のある現代日本、そして旧態依然とした大学組織に風穴を
開けてくれるかもしれない。日本のモデルケースとなることを、心か
ら期待している。

[< PREV](#)

123

この記事は参考になりましたか？

 0

参考になった



この連載の更新時にメールでお知らせ

 印刷用を表示

シェアする 0

 [リスト](#)







 **好事例から解き明かす、大学経営とデジタル人材育成連載
記事一覧**

— 苦戦が続く大学のデジタル教育—情報学部の新設は大学経営の起爆
剤となるのか？

 **この記事の著者**



角田 仁（ツノダ ヒトシ）

1989年に東京海上火災保険に入社。主にIT部門にお
いてIT戦略の企画業務を担当する。2015年からは東京
海上のIT企画部参与（部長）および東京海上日動シス
テムズ執行役員。2019年、博士号取得を機に30年間
務めた東京海上を退職して大学教員へ転じ、名古屋経
済大学教授や千葉工業大学教授を歴任した。現...

※プロフィールは、執筆時点、または直近の記事の寄稿時点での内容です

[この著者の最近の執筆記事](#)

Spotlight

AD



関西学院が選択した「Zoom
Phone」による電話システムのDX—
事業継続計画強化とAI活用を両立

2025/08/29 07:00

プログラミング不要、Googleの無料AIツ—
ルで「校務お助けアプリ」を開発！

新着記事一覧を見る

イベント





日々の**教育実践**の**ヒント**となる情報を
講演&ディスカッションでお届け